

麻酔学

ナンバリング

M4-S1-D25

責任者・コーディネーター	麻酔学講座 鈴木 健二 教授				
担当講座・学科（分野）	麻酔学講座、医学教育学分野				
担当教員	熊谷 基 特任教授、大畑 光彦 准教授、脇本 将寛 講師、相澤 純 特任講師				
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	8コマ	16.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

麻酔学は単に患者を手術侵襲から防御する知識を身につけるのみの学問ではない。患者の呼吸・循環・代謝管理等の全身管理について学び、これを全医学領域に応用できる力を養う学問である。
 そのために「患者を手術侵襲から防御するための薬剤」や「技術」についてまず学習し、更に「呼吸・循環・代謝管理の状態を把握する方法」や「把握した結果を評価する方法」、そして「その評価をもとに適切に対応する方法」などについて学習をすることを目的とする。

・教育成果（アウトカム）

- 1) 麻酔の意義および周術期管理について学習することで、周術期の患者評価・患者管理法について説明できるようになる。
- 2) 各種麻酔法を学ぶとともに各診療科ごとの麻酔法について学ぶことで、それぞれの特殊性について説明できるようになる。
- 3) 疼痛管理法の種類、神経ブロック手技について学ぶことで、それぞれの適応と合併症について説明できるようになる。
- 4) 麻酔について学んだ知識や技術を応用することで、他の医学領域での患者管理について説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 2,3,4,5,6)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	全身麻酔の三要素について説明できる。
2	周術期に起こり得る合併症について説明できる。
3	各種麻酔法、それぞれの適応と禁忌について説明できる。
4	麻酔で用いる機器の使用目的、原理、使用法について説明できる。
5	麻酔で用いる各種薬剤の特徴、および使い分けについて説明できる。
6	各科および特殊疾患の麻酔法について説明できる。
7	疼痛発生機序とその治療法について説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	4/3(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	麻酔の意義 術前患者管理法	1,2,7
講義	4/3(木)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	術中患者管理法	2,5,7
講義	4/10(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	静脈麻酔・筋弛緩薬	2,3,4,5
講義	4/10(木)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	吸入麻酔・麻酔器	2,3,4,5

講義	4/17(木)	1	麻酔学講座	脇本 将寛 講師	心臓血管外科手術の麻酔 小児麻酔	2,3,5,6
講義	4/17(木)	2	麻酔学講座	熊谷 基 特任教授	産科麻酔 脳外科手術の麻酔	2,3,5,6
講義	4/24(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	救急患者の麻酔	2,3,5,6
講義	4/24(木)	2	麻酔学講座	大畑 光彦 准教授	局所麻酔 ペインクリニック	2,3,5,6,7

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	若い医師のための麻酔科学 3訂版	横山武志、飯島毅彦 著	ベクトル・コア	2014
参考書	透視下神経ブロック法	大瀬戸清茂 編	医学書院	2009
推薦図書	ICUブック 第4版	Paul L. Marino著	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2015
推薦図書	標準麻酔科学第7版	古家仁、稲田英一、他	医学書院	2018
推薦図書	麻酔科レジデントマニュアル第4版	西山美鈴 著	一粒書房	2021
推薦図書	人工呼吸器ハンドブック2014	丸川征四郎、福山学 著	医学図書出版	2014

・成績評価方法

【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。 【形成的評価】 必要に応じて小テストにて講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 講義中の口頭試問によって学生の理解度を評価し、学生にフィードバックする。
--

・特記事項・その他

総論：麻酔の意義、術前・術中患者管理、全身麻酔法（麻酔器・吸入麻酔薬・筋弛緩薬・静脈麻酔薬）、局所麻酔法 各論：心臓血管外科手術の麻酔、脳外科手術の麻酔、産科麻酔、小児麻酔、救急患者の麻酔、集中治療、ペインクリニック シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。 なお、適宜講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデルコア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。 講義資料はWebclassで配信するが、講師によって紙媒体にて配布する場合もある（アクティブハンドアウトなど）。 本科目では、事前事後学修以外に各回2時間20分の自己学修を要す。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PCまたはタブレット、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	3	講義用スライド作成、試験問題作成
講義	パソコン（Think pad）	1	講義
講義	ノートパソコン（MacBookPro）	1	講義用スライド作成
講義	硬膜外麻酔シミュレータ（MW3）	1	講義
講義	ノートパソコン（Surface Pro3）	1	講義
講義	シュレッダー 18CI-R フェローズ	1	守秘義務に関わる書類等を廃棄